

経済協力セミナー第 14 回

## Urbanization In Asia and ADB's Operations in Urban Sector

講演者：本田恵理氏 Asian Development Bank アジア開発銀行職員

文責：リーダー 三好くるみ

I 加藤晶子

II 金杉郁野

III-1 新藤直人

III-1 高林美也子

IV-1&2 初山黎

IV-3 新藤直人

IV-4 高林美也子



### I .Urbanization Trends In Asia

アジアでは急速な都市化が進んでいる。しかし 2010 年現在の割合を世界と比べてみるとどちらかというと低いほうに当たる。アフリカよりも若干高いだけだ。それは 2050 年になってもあまり変わらない。しかし、都市部に住む人口で比べてみると、とても高く 2050 年には世界の半分をも占めることになる。

アジアにおける都市化の傾向として特徴的なものとして、農村から都市への移住があげられる。人々に自国を離れ他国へ移民するよう誘引する要因をプルファクター、呼び込み要因という。アジアでの都市化のプルファクターとしては、都市部の方が雇用機会が豊富であることや、賃金が高いこと、教育と公共医療制度が充実していることがあげられる。アジアにおける都市化の傾向は経済構造を反映するものである。日本や韓国の例に見られるように急速な都市化は工業構造の変化によるものである。これは国の産業にとっては良いことかもしれないが、問題も引き起こしている。移住者たちは日本で言う住民票を正式

に移したりしないので、正規雇用の道が遠ざかるのである。多くの者はタクシー運転手か街頭の物売りになる。その結果、十分な収入が得られず、スラムで暮らすこととなり、公共サービスを享受できなくなるのである。

人口 1 億人以上の都市、メガシティ、も都市化の影響によりアジアでは増えている。国連の発表した予想によると、2050 年にはメガシティの中でも人口の多い順に並べると、上位 10 カ国のうち 7 カ国はアジアの国である。メガシティにはスラム化、ホームレス人口の増加、交通渋滞、環境への負荷などの問題が伴うために、対策がとられる必要がある。

## II. Urbanization-Driving Growth and Reducing Poverty

都市化にも利点・欠点がある。利点として挙げられることは、まず都市が歴史的に見ても民主化、技術発展の中心地となっているため、経済成長、貧困削減は望めるということだ。実際 GDP の 70%は都市で生産されていると言われている。欠点としては都市の貧困が挙げられる。人口過密や乏しい供給は都市特有の課題と言えるだろう。現在約 10 億人が都市のスラムで生活しており、その状況は地方の貧困より程度がはなはだしいと言われている。また、環境破壊促進も欠点のひとつだ。空気・土壌・水の汚染や二酸化炭素の大量排出が問題になっている。ADB はこれらの利点・欠点を考慮したうえで都市化の計画を進めていく必要がある。

## III. ADB's Operation in Urban Sector

### 1. Priority Areas

ADB は、アジア諸国の都市開発において、さまざまなプロジェクトを立ち上げ、多くの投資を行っている。

まず、一つ目にあげられるのは、都市の設計とその運営である。アジアの諸都市では、現代において急速な発展を遂げているものの、都市内部では、インフラが十分に整備されておらず、都市の構造化がなされていないなど、都市工学的に不十分な点が多く残っている。そのため、ADB は、そうしたインフラ整備などに力を注ぎ、整備された都市づくりを推進している。二つ目に、地方財政の強化、地方分権の推進をあげられる。アジアの大都市においては、前の *Mega Cities* の項目で触れたように、都市の人口過密が顕著であり、その結果、途上国の大都市内部では、スラムの形成など都市環境が悪化し、増加した人口を消化する社会経済的基盤を整備することによる、多額の歳出が必要になる上に、一国内において大都市と中小都市との間の経済格差が発生していることなどが、問題となっている。その是正のために、地方中小都市への投資を通じて、その成長を促すことで、その中で人口の消化を可能にし、必要以上の大都市への人口流出を抑制して大都市の負担軽減につなげている。さらに、これらの達成のために、官民協同の推進もあわせて行っている。

三つめに、都市における、土地所有の明確化の推進をあげられる。元来、アジアでは、西洋と異なり、庶民の土地所有意識があいまいな場合が多く、国家の歳入にも影響する。国庫収入の確保のためにも、土地所有者を確定させることで、税の徴収の円滑化にもつながることになる。最後にあげるのは、地方都市サービスの充実と都市のインフラ整備である。これらは前でも触れているが、この目的は、庶民の生活の質の向上である。特に顕著な問題として例に挙げるのは、水供給の問題である。途上国では、上下水道の整備が追いつかず、水源はあるものの、安全で清潔な飲み水、生活用水を得られないという問題が発生している。

こうした問題の解決のために、ADBの活動が急がれるところである。

## 2. Loan approvals

ADBは、全体の貸付金額の15%である20億ドルを国々の都市部に貸している。その都市部に当てた貸付金額のうち、43%つまり8億5千万ドルを中国に、29%つまり5億8千万ドルをインドに貸している。

しかし、ここで問題がある。現在、中国やインドは急激な経済成長を遂げており、国内の都市はmega cityと呼ばれる大都市までに発展し、GDPも増えている。これまでは借り側であったが、これからいつこのような国々が貸す側になるかが、問題なのである。

## IV.ADB's Project Cycle

### 1. Country Partnership Strategy

ADBのプロジェクト・サイクルには四つの過程があり、第一の過程は国家協同戦略である。これは、政府の開発計画・経済、貧困の分析、そしてADBが過去に行ったプロジェクトの教訓と適合させて考えられ、3年がかりの比較的緩やかなプランと毎年のビジネスプランとがある。

### 2. Preparation, Appraisal and Approval

第二の過程は、準備と査定・承認である。準備計画、計画の需要予想、予算の見積もり、経済的・財政的分析、環境への影響、そして定住プランなどの実行可能性を研究するのがこの過程である。例えば、水の供給システムを整備した場合にそのシステムが一国の経済にどのような影響を及ぼすのかを研究したりする。

また、ADBは民間に現地調査を委託し、現存する道路の使用状況や交通量、渋滞の頻度、環境調査などを行わせる。その後調査結果をもとに詳しく計画をたてる。計画をたて終わるにはおよそ1年半かかる。国への貸付金額が決まるのもこの過程である。

### 3. Implementation

プロジェクトの実行に関して、各国政府が責任を担っており、対して、ADBはプロジェクトのガイドを行ったり、その監督作業を主に担当し、実作業からは距離を置いているのが、基本のスタンスである。しかし、プロジェクトの実行に関して、さまざまな問題も発生している。その例としては、プロジェクトの開始が遅れてしまったり、プロジェクト承認の手続きが煩雑で、承認が遅れてしまい、プロジェクト実行の遅れにつながっている。また、各国の政治体制の変化に伴い、プロジェクトの変化が生まれたり、ハイパーインフレで、プロジェクトコストの高騰が進み、プロジェクトの実行に影響を与えることがある。

### 4. Evaluation

遂行したすべての計画が、どのように進められたか、どのような影響を与えたかを評価する。計画達成度の評価は1~2年に渡って行われる。

また、対象国が独立しているかも評価対象である。計画がどれだけ結果につながったか、計画がどの程度の有効性をもっていたか、計画遂行における効率のよさ、遂行後の持続性、そして国、地区による影響についてなど、計画遂行中のことや、その後対象の国に与える影響など、計画の最初から最後まで、様々なことを振り返り、評価する。